

地域特産作物省エネ型施設導入緊急対策事業に関する事業評価票

本事業により省エネ型施設を導入した加工場名	品目名	燃油種類	現在 (単位: %/kg)	本年度 (平成28年度)	目標 (平成26年度) (単位: %/kg)	削減量 (単位: %/kg)	削減率(%)	達成率	自己評価	農政局の評価
(農)山東茶業組合	茶	A重油	0.143	0.117	0.106	0.026	18.2	(実績)0.117-0.143 (目標)0.106-0.143 =70%	前回の改善策に基づき平成28年度の実績を検証したところ目標値0.106/kgに対し0.117/kgとなった。目標達成には至らない状況ではあるが、旧式燃焼炉に比べ18%軽減させ生産量966.115kg(前年)に対し1062791.6kgと110%増加、販売高299242千円(前年)に対し346145千円と115%増加致しました。また、製造利益に対しても大きな効果を与えていることから導入効果としては非常に大きなものとなっている。今後も省エネに繋がる事前準備を始め安全操業を徹底し良質茶生産へ更に磨きを掛けながら深蒸し茶産地を代表する工場として努力を続けて参ります。	前年度よりは削減できたものの、目標は達成できなかった。引き続き、省エネに向けて、製造工程の管理、運行前点検及び清掃の徹底等の改善措置を適確に実施するよう指導する。
(農)五明茶業組合	茶	A重油	0.114	0.105	0.087	0.009	7.9	(実績)0.105-0.114 (目標)0.087-0.114 =33%	今回、省エネ施設の燃料消費実績を検証したところ、目標0.087/kgに対し0.105/kgとなった。平成27年度の反省を踏まえ改善策を立てた中で目標値には届かなかったものの前年度0.112/kgに対し6%軽減させることが出来た。特に一番茶製造に於いては気象条件が低温傾向であり茶期を通じて高燃焼運転による製茶となっている。年間を通じ燃焼炉の燃費を改善するには一番茶時期をどのように工夫するかであるが、良質茶製造を大前提に考えた場合、各工程において効率乾燥を行いながら製茶をすることが求められるため品質志向を狙う一方で、高燃焼運転をせざるを得ないところで矛盾が生じていることも現状であります。依然として茶業界を取り巻く状況は厳しい状態が続いている中で、前年度(H27)と本年度(H28)の実績を対比すると生葉受入量655,147kgに対し784,075.1kgで119%増加、売上では134,346千円に対し158,971千円と118%増加致しました。高品質茶生産を實踐することで、流通側にも認められていることも確かであります。今後も省エネで高品質茶生産に精進して参ります。	前年度より削減できたものの、目標は達成できなかった。引き続き、省エネに向けて、製造工程の管理、運行前点検及び清掃の徹底等の改善措置を適確に実施するよう指導する。